

---

# えっ?親父??

棟

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

えつ？親父？？

### 【著者名】

N5167A

### 【作者名】

棟

### 【あらすじ】

ある日俺は帰り道変になつたうちの親父を見つけた。

『待てコラッ！』

『逃げんじゃねえよ！』

最悪だ～！この状況も最悪だけどコイツらも最悪だ～弱いものを痛めつけてなにが楽しいんだよ～やるなら強い奴とやれつ～の！ホント、ダメダメだな～もうどんなにダメダメかつていうと、うちの親父ぐらいダメダメだな～

ん？なんでダメダメかつて？そもそもこの状況に陥ったのはあの親父のせいなんだ――――――！

～30分前。とある公園～

『金貸してくれよ～』

『すぐ返すからさあ～』

不良達がカツアゲをしている。ああいつたのが溢れているこの町ではよくあることだ。出来るだけ目立たず、関わらない方が得策なんだ。友達数人と公園前を歩きながらそう考えていた。

『オイ公園見てみろよ』

『普ツなんだあれ』

友達が公園を見ながら笑っている。

『？』

俺は疑問に感じて公園を見た。

『――』

カツアゲしていた不良の後ろにうちの親父がいる…。しかも顔は丸出しなのに服はスーパー・マン見たいな服を着ている。そして不良の後ろで何かしている…。

『なんだあの親父』

『後ろで喋ってるけど不良氣づいてないし』

友達は爆笑の渦だ。

『オイ！やめる！オイ聞いてるのか？ちょっと、オ、オイってば。ね

え』

親父の声は強い風の中に欠き消しているようだ。その風で親父のバ  
ーコードがなびいた。

『…………ツー。』

声にならないぐらい大爆笑している友人。『コラッキー。』  
ビシッ！

親父の下段蹴りが不良の足首にヒットした。

『あ、？』

『なんだこの親父？』

ついに不良的になつたうちの親父。

『うわ～馬鹿な親父だな』

『もう行こうぜ』

帰ろうとする友人を前に

『……ちよつと俺用事思い出したから先帰つて』

もちろん用事はあの親父のせいだ。いくらなんでも親父を見殺しが  
はできない。

『なんなんだよお前は！？』

胸ぐらを掴まれてるうちの親父。

『い、いや～き、キミ達そ、そのcrime（悪事）はよくないよ  
……。』

最後だけ発音よく英語で話した親父。もちろん

『あつ？なに言つてんのかわかんねーよー。』

俺は目の前の滑り台に隠れながら見守つた。

やつぱし助けんのやめよつかな…。俺が出たといひでビリにかかる  
わけじやないし。うん、やめよつ！俺の考えは2秒でまとった。

『あつ』

親父と目が合つた。

『た、たかしじゃないか！おつお父さんほっこりだよー。おーい。』

不良達の田はこっちに集まる。

『お前も仲間か？』

『いえ全然仲間とかそんなんじゃないですよ……ただ一ミコリットルぐらいは血が繋がってるかな？なんて……ハハ……』

うわ～やべ～。ん？親父は？

親父はとっても一生懸命に逃げている最中だった。こんなに速く走れたんだ…。息子を置いて。

『で？お前はアイツの息子なんだ』

『ええ、一応…』

『じゃあ、アイツのせいで金が借りれなかつた分お前が出せや…』

『あー！！！後ろに空飛ぶ一ワトリが…！』

不良達は振り向く。よかつた、不良＝馬鹿の方程式がはまつた。チャンスだ！俺は逃げた。

そして

（現在）

ハアハアハア…疲れた。もう走れない。運動部に入つとけばよかつた。なんて考へてる暇は無い。高い塙で行き止まりだ。

『オイオイもう觀念しな』

ちくしょー！理不尽なまま俺は殴られて金をとられるのかー。

『まてつ……crime（悪事）は許さないぞ…』

…親父が帰ってきた…。塙の上に乗つてゐる。

『あつ！テメホーさつきの親父じやねーか！』

『うわつ！さつきの不良だよ。間違えた間違えた』

引き返す親父。

『まてまてまて、息子を置いていくな親父よ』

俺は必死に引き止めた。

『た、たかしじゃないか。早く家に帰りなさい』

『この状況でよく言えるなー！とりあえず降りてこよー。』

渋々降りてきた親父。

『…で、どうすんだよ』

『うん、まあいいか』

『なにが！？』

『いや今最悪の状況じゃん？』

『アンタのせいでね』

『この最悪の中で最高のことを考えるんだ』

『どこをどうみても最高なことはないんだけど』

『俺はお前とこんなに話ができる最高だぞ！』

『うるせー！！』

『お前ら、いいかげん諦める』

不良達は我慢の限界だったようだ。

『フツたかしよ俺にすべてまかせな！』

『お、親父』

その時親父がでかく見えた。

『あつ後ろに空飛ぶカラスが！』

その時親父が小さく見えた。

親父＝馬鹿の方程式も完成した。もちろん誰一人として後ろを見る奴はいなかつた。

『あー後ろにグフツ！』

諦め悪く同じセリフを吐こうとした親父は殴られた。

『グーフツグーフツグーフツ』

聞いたことのない鳴き声で親父は転がつた。

『親父ー！！』

『だ、大丈夫だ。こんなやつら直ぐ片付けてやるからお前は待つてろー！』

親父は威勢よく立ち上がった。

『あー？いい度胸だな！かかって来いよー！』

『うおー』

『バキッ！』

親父は威勢よく倒れこんだ。

『弱えー！こんなやつばつぶつても勝てるぜ！』

不良達は笑う。

『フツ俺だつてこんなやつがつぶつっていても勝てねーぜー。』

『当たり前だよー普通に戦つて勝てるわけないのに更にマイナス要素をつけたらマイナス+マイナスで最悪だよー。』

『しあがない、お前が…3で俺が1でひつひつにな。』

『?……ハツ！戦つ相手の人数か！?ふざけんなよー2:2』

『…めりじて』

『うひさーーーいっぽいいっぽいなんだよー。』

『こんな場面でキレんなよー。』

『キレないですよ。俺キレさせたらたいしたものすよ』

『うざーーーーー元気で極つまひん物真似かよー。』

『やつちまえー。』

ドカツ！バキツ！コロコロコツ！

(後書き)

初ギャグです！短編で短くまとまりませんでしたがなんとか書き上げました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5167a/>

---

えっ?親父??

2010年10月22日00時30分発行